

JAIR Newsletter

No. 184 July 2025

日本国際政治学会

  
<https://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言	1	理事会便り	3
事務局からのお知らせ	2	2025 年度研究大会プログラム	4
2025 年度研究大会に関するお知らせ	2	編集後記	15

Z 世代とプレ Z の国際関係論

山田敦

教室で向き合う大学生たちと自分との歳の差は、当然ながら毎年1つずつ広がっていく。ある程度の差ができてから、ときどき講義中にこう思うようになった。自分の話は、この若い人たちに納得してもらっているのだろうか――。

ここ何年か、その思いをますます強くしている。講義で話すのは学問としての国際関係論であり、身の上話ではない。ただしそれは自分が体験し、学び、考えてきた国際関係の出来事や理論についての話である。それが Z 世代の学生たちにも「刺さる」のかどうか、はなはだ自信がもてなくなっている。

Z 世代とは概ね 2000 年前後に生まれた人々を指すようであるから、この巻頭言をお読みの皆さんは、私も含めて大半がそれ以前の世代――便宜上、一括してプレ Z (pre-Z) と呼ばせていただく――だろう。

プレ Z が体験した国際関係は、すべてではないにせよ、そこかしこに希望を見出せる世界であったように思う。ベルリンの壁は崩れ、冷戦が終わり、EU は拡大を続け、グローバル化が加速し、世界は SDGs で結束した。そうした変化に呼応して新しい国際関係研究が蓄積され、国際協調の進展を期待するプレ Z 研究者に共有された。

一方、Z 世代の目には、国際関係はもっとはるかに対立的で、分断され、破壊的で、凄惨な世界と映っているのではないだろうか。多感な十代から二十代に、彼らは廃墟と化したウクライナとガザの市街地や、虚な目をした避難民たちや、罵り合う首脳たちの姿を、日常的に SNS で共有している。

プレ Z の大学教師が、囚人のジレンマは繰り返しゲームによって緩和されうると講義しても、ロシアが独断的に軍事侵攻したことを知る Z 世代は納得するだろうか。国際関係の法化が進んできたと説明されても、国際刑事裁判所を軽視するプーチン、ネタニヤフ、トランプの言動を見て、Z 世代は首をひねるのではない。グローバル化は不可逆の流れだと言われてきたけれども、ヒト・モノの往来が一気に遮断されたパンデミックを経験した Z 世代は首肯するだろうか。

権威主義が跋扈する今、Z 世代は「歴史の終わり」とは何のことかと思うだろう。アメリカがなぜ「善良なる覇権国」なのか、ピンとこないに違いない。価値観が断片化された今日の世界で、規範起業家など実在するのかと迷うのではない。

多感期にウクライナとガザの衝撃を受けた Z 世代にとって、いちばん響くのは「力は正義なり」という常套句かもしれない。虚無感や諦めの念が若者たちに広がりかねない。しかしそのような弱肉強食の世界を克服することこそ、国際関係論の使命であり希望とされてきたはずである。この先も、次世代が希望をもてる世界像を示すことができるだろうか。それには Z 世代とプレ Z が一緒になって国際関係論を再構築していくしかあるまい。



事務局からのお知らせ

1. 監査の実施

5月初旬、2024年度事業報告書および計算書類に関する監事による監査を、会計事務所の助言に基づいて、書類の郵送にて実施しました。監査の結果、2024年度の事業報告および決算書類は適正であることが確認されました。

2. 2024年度事業報告書・決算書類の承認

6月28日に開催された定時評議員会にて、2024年度の事業報告書および決算書類が承認されました。

3. 新入会員の承認

6月7日に開催された第6回理事会で入会申込書等が回覧され、計37名の新入会員が承認されました。

会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

4. オンライン会員情報管理システムの移行

オンライン会員情報管理システムが **e-naf** (旧) から **clara** (新) に移行しました。旧システムで登録されていたパスワードは、新システムには引き継がれていませんので、改めて新システムで任意のパスワードをご登録頂く必要があります。まだご登録いただいていない場合は、下記 URL をクリックし、新パスワードの登録（初回ログイン）を行って頂きますよう、お願い申し上げます。

●新パスワードの登録方法

1) 下記 URL にアクセスする。

https://clara-nacos.com/jair/reset_password

システムログイン画面が表示されている場合は、[パスワード再設定] ボタンをクリックしてください。

2) 表示された [パスワード再設定申請] 画面で、このメールを受信したアドレスを入力し、[パスワード再設定を申請する] ボタンをクリックする。

3) [パスワードリセットのご案内] メールが届く。

4) [パスワードリセットのご案内] メール内の [パスワード再設定 URL] をクリックする。

5) 表示された [パスワード再設定] 画面で、任意の新パスワードを入力し、[パスワードを再設定する] ボタンをクリックする。

●新パスワードの登録（初回ログイン）ができない場合は・・・

ご登録内容を確認致しますので、下記情報を事務支局（jair★nacos.com）までメールでお知らせください。（★を@に置き換えてください）

件名：新パスワードの登録ができない

1) 会員番号（不明な場合は空欄可）、2) 漢字氏名、3) 所属機関名称、4) 生年月日、5) （自動メール配信区分として）登録を希望するメールアドレス

2024-2026年期理事長 遠藤貢
2024-2026年期事務局主任 湯川拓

2025年度研究大会に関するお知らせ

2025年度の研究大会も対面で開催いたします。会員の皆様におかれましては、ぜひ積極的にご参加くださいませよう、お願い申し上げます。大会の詳細については、今後、学会ホームページおよび会員メーリングリストなどを通じてお知らせいたします。

◆開催日および開催場所

10月17（金）～19日（日）神戸国際会議場

*会場へのアクセス <https://kobe-cc.jp/ja/visitors/access/>

◆懇親会の開催について

大会 2 日目の共通論題終了後の開催を予定しています。

◆大会 2 日目について

神戸大会においては、近年の開催方式を踏襲し、大会 1 日目に分科会を 1 セッション、2 日目に分科会を 2 セッション開催いたします。また、今年度も懇親会を開催することになりましたので、昼食休憩時間など 2 日目の日程がやや過密となっております。後日発送の大会プログラムにて、詳細をご確認ください。

◆大会当日までのスケジュールは概ね以下のようになります。

【7 月下旬～8 月上旬】

○「2025 年度研究大会のご案内」の郵送と学会 HP 上でのお知らせ

・部会および分科会のプログラムと大会の詳細をご案内するとともに、登録申し込みウェブサイトを開

【9 月上旬】

○「報告要旨」のアップロードの開始（報告要旨集については、昨今の例に倣い紙媒体では配布せず、ウェブサイトに掲載します）。

【10 月初旬】

○「報告ペーパー」のダウンロード開始

◆託児費用の学会助成について

研究大会にご参加される間に託児所・託児サービスをご利用された場合、学会からの助成金を支給いたします。学会 HP 掲載の託児費用助成申請をご確認、ご記入の上、大会後に申請書ファイルを学会会計部にお送りください。

◆大会についての問い合わせ先

神戸大会実行委員会

jair2025kobe★osipp.osaka-u.ac.jp（★を@に置き換えてください）

充実した大会になりますよう準備を進めて参りますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

2025 年度研究大会実行委員長 中嶋啓雄

理事会便り

編集委員会からのお知らせ

『国際政治』223 号の投稿募集を開始しております。詳細はウェブサイトをご覧ください。

『国際政治』223 号「国際政治における民主主義」（仮）

市原麻衣子会員編集担当

申込締切：2026 年 1 月 31 日

原稿締切：2026 年 12 月 31 日

投稿募集要項はこちらから。

<https://jair.or.jp/committee/henshu/11314.html>

原稿を提出する際の執筆要領はこちらから。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

なお、独立論文の投稿は随時受け付けています。投稿の申し込み先などは『国際政治』各号の末尾に記載されておりますのでご覧ください。特集号、独立論文ともに、会員の皆様の投稿をお待ちしております。

編集委員会 主任 倉科一希

副主任 青野利彦・田中（坂部）有佳子

広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>) をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (clara)」内に掲載されております。clara にログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトについてお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に置き換えてください)

広報委員会主任 下谷内奈緒

2025 年度研究大会プログラム

※以下のプログラムは暫定版（7 月末時点）です。

2025 年度研究大会 部会・共通論題プログラム

第 1 日 10 月 17 日（金）13:00～15:30

午後の部会（13:00～15:30）

部会 1 テクノロジーと国際平和・安全保障

司会 深澤一弘（横浜国立大学）

報告 秋山信将（一橋大学）

“Deterrence by Algorithm?: AI’s Stabilizing and Destabilizing Roles in Nuclear Deterrence”

ウァーリッシュ, マーティン (Martin WÄHLISCH) (University of Birmingham)

“AI-enabled Crisis Computing”

中谷純江（一橋大学）

“Comparative Study on the role of AI in Crisis Response: Case of Disaster Management in Japan”

討論 澁谷遊野（東京大学）

田中（坂部）有佳子（共立女子大学）

部会 2 CSCE プロセス再検討——ヘルシンキ宣言 50 年とその現代的転回

司会 齋藤嘉臣（京都大学）

報告 玉井雅隆（秋田大学）

「OSCE の安全保障と民族問題——国際機構化した OSCE の新たな脅威」

宮脇昇（立命館大学）

「CSCE の誕生と継続をめぐる不安定なプロセス」

吉川元（広島市立大学）

「安全保障共同体に向けて協調と分断の構造」

討論 佐々木卓也（立教大学）

渡邊啓貴（帝京大学）

部会 3 質的方法だからこそ明らかにできることとは何か

司会 藤田泰昌（埼玉大学）

報告 網谷龍介（津田塾大学）

「質的研究は『歴史』をどう扱っているか」

泉川泰博（青山学院大学）

「質的手法の比較優位としての概念構築」

新川匠郎（神戸大学）・*日野愛郎（早稲田大学）*非登壇共著者

「過程追跡における二段階評価：集合論的期待と推論」

討論 赤星聖（神戸大学）
岡田勇（名古屋大学）

部会 4 総力戦をめぐる政治と外交——日本とヨーロッパの視点からの史的分析

司会 葛谷彩（明治学院大学）（討論を兼ねる）
報告 森靖夫（同志社大学）
「総力戦と日本——国際比較の中で考える」
山本みずき（東京大学）
「総力戦とイギリス・ファシズム——第二次大戦期の政治的急進主義と国家体制」
宮下雄一郎（法政大学）
「総力戦と自由フランス、1940-1964 年——日本支部の帰趨をめぐる政治と外交」
討論 森田吉彦（大阪観光大学）

部会 5 露（ソ）朝再接近——両国関係の変動と国際社会

司会 増永真（千葉大学）
報告 下斗米伸夫（神奈川大学）
「露朝関係の緊密化の背景——ロシアからの視点」
宮本悟（聖学院大学）
「朝鮮のロシアに対する認識の変遷」
小泉悠（東京大学）
「露朝軍事協力の戦略的インパクト」
討論 益尾知佐子（九州大学）
草野大希（埼玉大学）

分科会セッション A （15:45~17:45）別掲

第 2 日 10 月 18 日（土）09:30~12:00 16:00~18:50（共通論題）

午前の部会（09:30~12:00）

部会 6 覇権後の国際秩序——問題領域による相違はなぜ生じるか

司会 大矢根聡（同志社大学）
報告 鄭方婷（ジェトロ・アジア経済研究所）
「レジームの『意図せぬ』推進？——米中対立と気候変動規範の展開」
詫摩佳代（慶應義塾大学）
「米国不在のグローバル保健ガバナンス」
三浦秀之（杏林大学）
「揺れ動く国際経済秩序におけるデジタル貿易ルール形成の課題と対応」
討論 飯田敬輔（政策研究大学院大学）
杉之原真子（フェリス学院大学）

部会 7 政治指導者と国際政治・対外政策

司会 佐橋亮（東京大学）
報告 山口航（帝京大学）
「国際政治における政治指導者——首脳会談に注目して」
林載桓（青山学院大学）
“Executive Signaling and Assertive Diplomacy: Xi Jinping, China’s Foreign Ministry, and the Rise of Wolf Warrior Diplomacy”
高木佑輔（政策研究大学院大学）
「新興国の大戦略——フィリピン大統領の外交指導とその限界」
討論 廣瀬陽子（慶應義塾大学）
土井翔平（北海道大学）

部会 8 BRICS の吸引力と遠心力

司会 大庭三枝（神奈川大学）

報告 鈴木早苗（東京大学）
「BRICS の制度的特徴と共通利益」

報告 伊豆山真理（防衛研究所）
「BRICS と国際秩序の『改革』——インドの視点から」

報告 青山瑠妙（早稲田大学）
「中国からみた BRICS の戦略的価値」

討論 舩方周一郎（慶應義塾大学）
落合雄彦（龍谷大学）

部会 9 グローバル危機下における規範と実践

司会 山田満（早稲田大学）（討論を兼ねる）

報告 小松志朗（山梨大学）
「アフター・コロナの往来制限とグローバル化——国際保健規則の改正に注目して」
藤川健太郎（名古屋大学）
“Are Certain Normative Ideas Better to Be Left Unsaid?: Remedial Secession and Its Impact on International Politics”
王 旻（立命館大学）
「ポスト冷戦期の中国人民解放軍及び日本自衛隊の災害救援活動——進化論的アプローチによる分析」

討論 庄司真理子（敬愛大学）

部会 10 日韓合同部会 “The 60th Anniversary of Japan-South Korea Normalization: Challenges from Past to Future”（英語で実施）

Chair:

ENDO Mitsugi (The University of Tokyo)

Speakers:

OH Seunghee (Korea National Diplomatic Academy)
“Diplomatic Cooperation in Korea–Japan Relations”
LEE Changmin (Hankuk University of Foreign Studies)
“Economic Cooperation in Korea–Japan Relations”
SAKATA Yasuyo (Kanda University of International Studies)
“US–Japan–ROK Trilateral Cooperation: History and Present”

Discussants:

PARK Jinsoo (Duksung Women’s University)
NISHINO Junya (Keio University)

分科会セッション B （12:45~14:00）別掲

分科会セッション C （14:15~15:30）別掲

総会 （15:30~16:00）

【共通論題】 日本外交にとってのアメリカ（16:00~18:50）

司会 細谷雄一（慶應義塾大学）

報告 楠綾子（国際日本文化研究センター）
「日本外交にとってのアメリカ——戦後史の観点から」
山本章子（琉球大学）
「沖縄から見た日米外交交渉」
竹中治堅（政策研究大学院大学）
「日米安全保障関係と国内政治——冷戦終了からトランプ大統領期まで」
討論 村田晃嗣（同志社大学）
五百旗頭薫（東京大学）

懇親会（19:05~20:35）

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:55) 別掲

部会 11 アフガニスタンにおけるリベラル国家建設——その失敗の再検討

司会 稲田十一(専修大学)(討論を兼ねる)

報告 藤重博美(青山学院大学)

「アフガニスタン国家建設の挫折——『対テロ戦争』との交錯に着目して」

篠田英朗(東京外国語大学)

「アフガニスタン侵略と国家建設——紛争解決論の視点から」

上杉勇司(早稲田大学)・*シャムス・シャムスル=ハディ(国連訓練調査研究所)*非登壇共著者

“Peace Collapsed; Order Restored?: Reassessing Failed Peacebuilding and the Reality of Taliban Governance in Afghanistan”

討論 吉崎知典(東京外国語大学)

部会 12 国際政治学に安全保障はいまだ有効な視座なのか

司会 奥迫元(早稲田大学)(討論を兼ねる)

報告 鈴木一人(東京大学)

「経済安全保障を安全保障として論じることは可能なのか」

南山淳(筑波大学)

「安全保障言説において理論的視角は成立するのか？」

坪内淳(聖心女子大学)

「『安全保障』は再び国際政治学を語りうるのか」

討論 志田淳二郎(名桜大学)

部会 13 日露・日ソ間の諸条約とその影響——樺太千島交換条約(150周年)後から日ソ基本条約(100周年)後まで

司会 醍醐龍馬(大阪大学)

報告 高橋亮一(國學院大学)

「樺太千島交換条約後の日露漁業関係——露領漁業をめぐる友好と対立」

岡部克哉(慶應義塾大学)

「ポーツマス講和条約後のロシアと日本の脅威——二正面戦争への懸念」

藤本健太郎(小樽商科大学)

「日ソ基本条約の事後処理としてのサハリン問題——モスクワでの議論を中心に」

討論 渡邊公太(帝京大学)

花田智之(防衛研究所)

部会 14 国際統合のグランドセオリー再訪

司会 河越真帆(神田外語大学)

報告 武田健(青山学院大学)

「危機をめぐる欧州統合の理論論争——『グランドセオリー』再訪」

中村英俊(早稲田大学)

「ドイッチュの安全保障共同体論・再訪」

東野篤子(筑波大学)

「安全保障化論を中心に」

討論 川嶋周一(明治大学)

増島建(神戸大学)

部会 15 戦争の終わらせ方【市民講座を兼ねる】

司会 藤原帰一(順天堂大学)(討論を兼ねる)

報告 辻田俊哉(大阪大学)

「非対称紛争の終わらせ方——イスラエル・ガザ紛争を中心に」

山添博史(防衛研究所)

「ウクライナとロシアの平和達成の試み」

谷口美代子（宮崎公立大学）

「領域的自治による制度的紛争解決の有効性の検討——アチェとミンダナオの比較研究（Examining the Effectiveness of Territorial Autonomy as a Conflict Resolution: A Comparative Study of Indonesia (Ache) and Philippines (Mindanao)）」

討論 千々和泰明（防衛研究所）

分科会プログラム

◆10月17日（金）

分科会セッションA（15:45～17:45）

A-1 日本外交史分科会

責任者 吉田 真吾（近畿大学）

テーマ 第一次大戦後の国際変動と日本外交

司会 番定 賢治（東京大学）

報告 江 子正（京都大学）

「パリ講和会議と日本外交——人種平等提案の『取引材料説』を中心に」

中村 凌太郎（立命館大学）

「経済外交時代の到来と外務省——商務官の設置を中心に」

討論 熊本 史雄（駒澤大学）

中谷 直司（帝京大学）

A-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会

責任者 鳥潟 優子（同志社女子大学）

テーマ フランス政治外交の変容と欧州統合の進展

司会 石田 憲（千葉大学）

報告 小久保 康之（東洋英和女学院大学）

「シモーヌ・ヴェイユと欧州統合——欧州議会議長・議員としての功績」

本間 圭一（東洋大学）

「フランスの極右政治家ジャン＝マリ・ルペンの歴史的役割」

窪内 尊之（早稲田大学／ソルボンヌ・ヌーヴェル大学）

「G7サミットの変容とフランス外交 1979-1983 年——経済サミットから政治サミットへ」

討論 吉田 徹（同志社大学）

板橋 拓己（東京大学）

A-3 東アジア分科会 I

責任者 大澤 傑（愛知学院大学）

テーマ 日韓・日中関係を形成する論理

司会 大澤 傑（愛知学院大学）

報告 全 汝株（東京大学）

「韓国の民主化と日本の 55 年体制の崩壊——戦後日韓の国内政治の再編と歴史問題の展開」

中川 大雅（青山学院大学）

「ポスト・パクスアメリカナの時代における日本の同志国協力」

李 珮（神戸大学）

「『中国的』な国際関係論の構築と脱構築——インタビュー調査から見た『中国学派』の内なる論理」

討論 村井 友秀（東京国際大学）

富樫 あゆみ（東洋英和女学院大学）

A-4 中東分科会

責任者 河村 有介（神戸大学）

テーマ 自由論題

司会 河村 有介（神戸大学）

報告 濱中 新吾（龍谷大学）

「リベラリストが人道主義者になる時——イスラエル『鉄の剣』作戦の遂行と人質解放を事例として」

末近 浩太（立命館大学）・山尾 大（九州大学）

“Measuring Public Support for the Axis of Resistance: Evidence from Experimental Surveys in Palestine, Lebanon, Iraq, and Yemen”

山岡 陽輝（慶應義塾大学）

「イスラーム主義組織『解放党』のトランスナショナルな性格とその影響」

討論 篠本 創（早稲田大学）

池端 蒔子（広島大学）

A-5 国際統合分科会

責任者 鶴岡 路人（慶應義塾大学）

テーマ 防衛装備分野における国際統合の新潮流——AUKUS と GCAP の事例から

司会 鶴岡 路人（慶應義塾大学）（討論を兼ねる）

報告 佐竹 知彦（青山学院大学）

「AUKUS にみる国防産業基盤統合の可能性と限界」

清岡 克吉（防衛研究所）

「GCAP と国際共同開発の在り方」

討論 森 聡（慶應義塾大学）

A-6 政策決定分科会 I

責任者 三浦 秀之（杏林大学）

テーマ 技術をめぐる政策決定

司会 田中 極子（東洋英和女学院大学）（討論を兼ねる）

報告 齊藤 孝祐（上智大学）

「『想像上の技術』はいかにして規制されるのか——EMMOD の形成過程に関する試論」

手塚 沙織（南山大学）

「技術覇権とゼロサムゲームの人材獲得」

討論 奥田 将洋（科学技術振興機構）

A-7 平和研究分科会 I

責任者 古澤 嘉朗（広島市立大学）

テーマ 紛争後の課題から和解への道程

司会 小阪 真也（早稲田大学）

報告 外村 晃（梅光学院大学）

「HDP（人道・開発・平和）ネクサスの国際政治学」

望月 康恵（関西学院大学）

「正義の迫及の進展がもたらす課題——ロシア・ウクライナ戦争を事例として」

杉山 緑（津田塾大学）

「平和構築における外部アクターの『下からの』戦略的アプローチの有効性——アフガニスタンの事例」

JANG Kyounghwan（東京大学）

“Reconciliation Dilemma: A Theoretical Analysis of Historical Reconciliation Diplomacy”

討論 西川 由紀子（同志社大学）

小山 淑子（早稲田大学）

◆10月18日（土）

分科会セッションB（12:45～14:00）

B-1 東アジア国際政治史分科会

責任者 青山 治世（亜細亜大学）

テーマ 自由論題

司会 川島 真（東京大学）

報告 韓 相一（成蹊大学）

「大韓帝国における政変陰謀からみる近代日韓関係」

略 豊（多摩大学）

「東アジアの冷戦と知識人——中国・台湾の対日工作（1950-60年代）」

討論 木村 幹（神戸大学）
小林 聡明（日本大学）

B－2 ラテンアメリカ分科会
テーマ 中米の越境者と国際関係

責任者 橘 生子（津田塾大学）

司会 橘 生子（津田塾大学）
報告 笛田 千容（駒澤大学）

「移民の安全保障化と地域連携化の移民政策——中米統合機構（SICA）と中米移民局長委員会（OCAM）を中心に」

板倉 渉（東京大学）

「サンディニスタ政権の人民外交——1980年代における米国人活動家との越境的ネットワークの構築」

討論 田中 秀一（JICA 緒方貞子平和開発研究所）
細田 晴子（日本大学）

B－3 理論と方法分科会 I
テーマ 基礎論へのアプローチ
司会 久保田 徳仁（防衛大学校）
報告 岡本 至（文京学院大学）

責任者 久保田 徳仁（防衛大学校）

「生物学的自然主義と制度的現実——サール哲学に依拠する（国際）政治学の存在論的基礎づけ」

深田 明（京都大学）

「多元化する福祉国家における<移民>——福祉国家研究の方法論的・理論的射程」

討論 森川 裕二（長崎大学）
佐藤 俊輔（金沢大学）

B－4 国連研究分科会
テーマ ガバナンスを巡る諸相
司会 山本 慎一（香川大学）（討論を兼ねる）
報告 尾立 素子（ADRA Japan）

責任者 山本 慎一（香川大学）

「国際人道開発支援分野における性的搾取・虐待からの保護（Protection from Sexual Exploitation and Abuse(PSEA)) ——進捗と課題」

都築 正泰（上智大学）

「アフリカ国連 PKO における『強力性』の追求——『保護する責任』から『安定化』支援へ 1999－2024 年」

討論 川口 智恵（東洋学園大学）

B－5 平和研究分科会 II
テーマ 分断の時代の平和構築——持続可能な平和の模索
司会 クロス 京子（京都産業大学）
報告 二村 まどか（法政大学）

責任者 古澤 嘉朗（広島市立大学）

「平和構築における和解の役割——紛争転換の視点より」

井口 正彦（京都産業大学）

「環境と平和構築——持続可能な平和の実現に向けて」

討論 熊谷 奈緒子（青山学院大学）
前田 幸男（創価大学）

分科会セッション B・C（12:45～15:30）

B・C 安全保障分科会

責任者 一政 祐行（防衛研究所）

テーマ 「戦後日本の安全保障と同盟ダイナミクス——構想・実践・制度から拡大抑止までの多層的展開」

司会 中島 信吾（防衛研究所）

- 報告 川崎 剛（サイモン・フレイザー大学）
「総合安全保障戦略再考——高坂正堯構想を再構築する」
- 小木 洋人（慶應義塾大学）
「『専守防衛』の起源——1970年代における中曽根構想の挫折に関する戦略論的分析」
- 三百苺 拓志（一橋大学）
「日米防衛協力の制度化と自衛隊への影響——1978年の『指針』から1997年の改定まで」
- KIM Tongfi（Free University of Brussels (VUB)）
「米国の安全保障コミットメントと中国の海洋紛争」
- 討論 服部 龍二（中央大学）
武田 悠（広島市立大学）
毛利 亜樹（筑波大学）

分科会セッション C（14:15～15:30）

- C-1 ロシア・東欧分科会 I** 責任者 加藤 美保子（広島市立大学）
テーマ ユーラシアから見える冷戦史／国際関係
司会 富樫 耕介（同志社大学）（討論を兼ねる）
報告 李 優大（東海大学）
「ユーラシア国際関係史から冷戦史を相対化する試み——ソ連・イラン関係を中心に」
加藤 美保子（広島市立大学）
「『ならず者』たちのユーラシア国際関係——ロシア、イランとその周辺地域」
討論 池田 亮（東北大学）
- C-2 理論と方法分科会 II** 責任者 久保田 徳仁（防衛大学校）
テーマ 国際政治を測る試み
司会 窪田 悠一（日本大学）（討論を兼ねる）
報告 飯田 健（同志社大学）・*Masaki HATA (Osaka University of Economics)・Yasuhiro IZUMIKAWA (Aoyama Gakuin University)・KIM Tongfi (Vrije Universiteit Brussel) (*非登壇共著者)
“Leadership Change and Fears of Abandonment and Entrapment among the Public”
前川 和歌子（大阪大学）
“Evaluating United Nations Integrated Transition Assistance Mission in Sudan (UNITAMS): Micro-level Evidence on Peacekeeping Exit Strategy”
松村 尚子（神戸大学）
“How Elite Endorsements Shape Public Opinion on Security Policy: Results from a Conjoint Experiment in Japan”
討論 籠谷 公司（中央大学）
- C-3 国際政治経済分科会 I** 責任者 赤星 聖（神戸大学）
テーマ 国際制度発展における観念的要素の役割——威信と知識
司会 栗栖 薫子（神戸大学）（討論を兼ねる）
報告 浜中 慎太郎（アジア経済研究所）
「国際制度におけるリーダー国の外交的威信と経済コスト」
倉石 東那（東京大学）
「知識が国際流域管理制度の発展に与える政治的作用」
討論 山田 高敬（金城学院大学）
- C-4 国際交流分科会** 責任者 井上 浩子（大東文化大学）
テーマ 自由論題
司会 井上 浩子（大東文化大学）
報告 半澤 朝彦（明治学院大学）
「国歌のグローバルヒストリー」

REN Miaozhi (早稲田大学)

“Construction of the Concept of ‘Asia’ in the Modern Chinese Society: Having *the Eastern Miscellany* during the Interwar Period as the Case”

討論 芝崎 厚士 (駒澤大学)

齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

C-5 院生・若手研究分科会 I

責任者 富田 健司 (九州大学)

テーマ 宇宙開発・科学技術をめぐる国際政治の力学——戦略・協力・リスクをつなぐ比較視点から

司会 渡辺 広樹 (東京科学大学)

報告 坂口 滉季 (中央大学)

「安定的・持続的な宇宙開発利用への諸脅威の分析」

松下 凌士 (一橋大学)

「日米科学技術協力の質的変容——援助から貢献へ」

加藤 寿昂 (京都大学)

「冷戦期米国における宇宙外交の模索」

討論 渡邊 浩崇 (大阪大学)

森口 由香 (京都大学)

◆10月19日(日)

分科会セッション D (9:30~11:00)

D-1 日本外交史分科会 II

責任者 吉田 真吾 (近畿大学)

テーマ 冷戦終結期の日本外交

司会 吉田 真吾 (近畿大学)

報告 東郷 雄太 (神戸大学)

「『関与』の制度化——中曽根政権期における対中経済協力を中心に」

朴 大元 (東京大学)

「朝鮮半島の緊張緩和と日朝国交正常化交渉への道程——日本社会党の役割と金丸訪朝を中心に」

深田 政彦 (放送大学)

「PKO5原則の誕生——海部政権における自衛隊海外派遣の正当化と制度化」

討論 若月 秀和 (北海学園大学)

庄司 貴由 (三重大学)

D-2 アフリカ分科会

責任者 荒木 圭子 (東海大学)

テーマ アフリカにおける難民／移民の移動と「安全保障」——安全保障上の「脅威」はいかに創られるのか？

司会 荒木 圭子 (東海大学)

報告 杉木 明子 (慶應義塾大学)

「アフリカにおける難民／移民の『安全保障化』——『安全保障化』における『オーディエンス』と対抗するアクター」

網中 昭世 (アジア経済研究所)

「南アフリカにおける難民／移民の『安全保障化』と規範の地域性に関する考察」

米川 正子 (神戸女学院大学)

「人口操作 (demographic engineering) と安全保障の関係——ルワンダとコンゴの難民／移民の事例から」

討論 和田 萌 (奈良県立大学)

D-3 ロシア・東欧分科会 II

責任者 加藤 美保子 (広島市立大学)

テーマ 中東欧における原子力政策と国際政治

司会 東原 正明 (福岡大学)

報告 福田 宏 (成城大学)

「中東欧における高レベル放射性廃棄物 (原発のゴミ) と国際関係——チェコを中心に」

友次 晋介（大阪経済大学）

「バルト海沿岸諸国の原子力国際関係——電力をめぐる紐帯、相互依存、地政学」

討論 服部 倫卓（北海道大学）

D-4 東アジア分科会 II

責任者 大澤 傑（愛知学院大学）

テーマ 中国の軍民融合と新興技術の輸出管理

司会 小野 純子（外務省）

報告 伊藤 和歌子（日本国際フォーラム）

「国家戦略としての『軍民融合』の現在——宇宙産業クラスターを例に」

後藤 洋平（防衛研究所）

「習近平政権の国防産業政策——集権化、市場化そして法治化」

土屋 貴裕（京都外国語大学）

「中国の軍民融合発展戦略における基金制度と産業クラスター化——新興技術の輸出管理への影響」

討論 高野 順一（日本輸出管理研究所）

佐藤 丙午（拓殖大学）

D-5 国際政治経済分科会 II

責任者 赤星 聖（神戸大学）

テーマ 複雑化するサプライチェーンをめぐる国際政治経済

司会 小尾 美千代（南山大学）（討論を兼ねる）

報告 鈴木 一敏（上智大学）・*橋本 敬（北陸先端科学技術大学院大学）（*非登壇共著者）

「デカップリング政策と国際交渉力の変化」

本田 義明（国際社会経済研究所）

「重要物資サプライチェーンの再編をめぐる日米欧フレンドショアリングと相克——車載蓄電池サプライチェーンのエコノミック・ステイトクラフトと経済パワー」

討論 高山 嘉顕（日本国際問題研究所）

D-6 ジェンダー分科会

責任者 大野 聖良（お茶の水女子大学）

テーマ ジェンダー・ポリティクスの諸相

司会 大野 聖良（お茶の水女子大学）

報告 笹岡 伸矢（駿河台大学）

「女性参政権成立の国際的要因 比較分析による検証」

呉 恵如（台湾国立清華大学）

“When the ‘Patient’ is Exclusively Male: Examining Gender Politics in Emergency Medical Training in Taiwan”

討論 本山 央子（お茶の水女子大学）

古沢 希代子（東京女子大学）

◆10月19日（日）

分科会セッション E（11:15～12:55）

E-1 日本外交史分科会／欧州国際政治史・欧州研究分科会合同分科会

責任者 吉田 真吾（近畿大学）

鳥潟 優子（同志社女子大学）

テーマ 帝国の諸相と国際政治

司会 羽場 久美子（青山学院大学）

報告 藤原 樹（京都大学）

「1920年代前半における日本の対トルコ外交——ワシントン体制の限界を補完する外交戦略として」

矢嶋 光（名城大学）

「満洲事変とポーランド——日本外交史の視点から」

入山 慎一セバスティアン（東京大学）

「ジブラルタルの『共同統治』をめぐる議論と住民投票——脱植民地化、欧州統合、BREXIT」

討論 樋口 真魚（成蹊大学）
伊藤 頌文（防衛研究所）

E-2 アメリカ政治外交分科会

責任者 島村 直幸（杏林大学）

テーマ アメリカ外交史（と政策論）の再検討

司会 島村 直幸（杏林大学）

報告 平井 雄大（東京大学）

「政策論としての古典的リアリズム——H・モーゲンソーとF・シューマン」

肖 凱豊（大阪大学）

“Stuart’s Two Peace Efforts and the Transformation of U.S. East Asian Policy: During the Sino-Japanese War and the Chinese Civil War”

崔 勝燁（東京大学）

「レーガン政権期における東アジア政策の再検討——朝鮮半島の危機とその収束過程を中心に」

討論 岡垣 知子（獨協大学）

高光 佳絵（千葉大学）

青野 利彦（一橋大学）

E-3 東南アジア分科会

責任者 井原 伸浩（名古屋大学）

テーマ 自由論題

司会 井原 伸浩（名古屋大学）（討論を兼ねる）

報告 垣原 史歩（東京大学）

「なぜ反政府組織は共通の敵に対して団結できないのか——ミャンマー・チン州における組織間対立の背景」

中西 友汰（同志社大学）

「福田赳夫政権期の東南アジア外交——ブレインの役割に注目して」

松井 洋和（東京大学）

「オーストラリアと日本・東南アジア経済関係の再確立——メンジーズ政権の成立から 1954 年 8 月の対日政策閣議決定までを中心に」

討論 工藤 年博（政策研究大学院大学）

石原 雄介（防衛研究所）

E-4 政策決定分科会Ⅱ

責任者 三浦 秀之（杏林大学）

テーマ 脅威の形成・変容と政策決定

司会 寺田 貴（同志社大学）

報告 Yilin Aileen LU（Peking University）

“Shaping the Economic (In)security: The Diffusion of Foreign Investment Screening Mechanisms amid the U.S.-China Rivalry”

高橋 亮太（獨協大学）

「ブラジルに対する中国のエコノミック・ステイトクラフトに関する予備的考察」

新子 泰平（東京大学）

“Rebel Presence and Border Demarcation: How Domestic Conflict Shapes International Boundary Policy”

討論 平川 幸子（早稲田大学）

相良 祥之（国際文化会館）

E-5 トランスナショナル分科会

責任者 細田 晴子（日本大学）

テーマ 移民受け入れ社会の多層的対応——労働力確保・共生・移民選好の視点から

司会 石井 由香（静岡県立大学）（討論を兼ねる）

報告 松尾 昌樹（宇都宮大学）

「アジアにおける移民政策・移民先の選好に関する考察——8 カ国サーベイ調査の結果から」

植村 充（名古屋商科大学）

「国家に対抗する移民受け入れ都市ネットワークの興隆と政治的影響」

仇 真（慶應義塾大学）

「サウジアラビアの労働力自国民化政策の下における中国人労働者のトランスナショナルな移動」

討論 飯笹 佐代子（青山学院大学）

E-6 環境分科会

責任者 中山 賢司（創価大学）

テーマ 地球環境ガバナンスの多層的展開——国際交渉・レジーム複合体・オーケストレーション

司会 中山 賢司（創価大学）

報告 Audrius SABŪNAS（国際基督教大学）

「気候変動枠組条約締約国会議（COP）における気候変動交渉——日韓米の比較から」

大久保 彩子（東海大学）・石井 敦（東北大学）

「政策的含意の系統的抽出を目指して——ヨーロッパウナギの保全管理にみるレジーム複合体と制度間相互作用」

高橋 若菜（宇都宮大学）

「ネイチャーベースド・ソリューションの主流化——オーケストレーションとマルチレベル・ガバナンスの視点からみるマルメ市の実践」

討論 足立 研幾（立命館大学）

白井 陽一郎（新潟国際情報大学）

E-7 院生・若手研究分科会 II

責任者 富田 健司（九州大学）

テーマ 近現代ヨーロッパ政治の意思決定メカニズム——軍事介入、開発援助、選挙制度とジェンダーの視点から

司会 根岸 董（早稲田大学）

報告 BI Chen（国際基督教大学）

「スエズ危機におけるイーデン政権の軍事介入決定——新古典現実主義理論における意思決定メカニズムの再考」

東 和佳奈（神戸大学）

「ドイツにおける途上国支援——職業訓練教育（VET）の意思決定過程の分析」

生木 新菜（早稲田大学）

「女性なぜ排除されたのか——イタリア 1912 年選挙法と女性選挙権論争」

討論 篠崎 正郎（拓殖大学）

杉浦 功一（文教大学）

北村 陽子（東京大学）

■編集後記

研究大会の準備が進んでいます。巻頭言で山田会員が提起した「Z世代の学生たちにも『刺さる』ものとなることを、期待したい。（NS）

今年も活発な研究大会になると確信しました。楽しみです。（RS）

オンライン会員情報管理システムが5月から claraに移行しました。初回ログイン時にはパスワードの再設定が必要になりますが、新たなオンライン会員情報管理システム（clara）のご利用を会員のみなさまにお願い申し上げます。（SK）

日本国際政治学会ニューズレター No.184
（2025 年 7 月 31 日発行）

発行人 遠藤 貢

編集人 下谷内 奈緒・佐橋 亮・小林 哲

〒187-0045 東京都小平市学園西町 1-29-1

一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究センター 2 階 客員教官研究室 3

日本国際政治学会 一橋事務所気付

下谷内 奈緒 jair-pr☆jair.or.jp